

横浜創英の建学の精神は「考えて行動のできる人」の育成です。生徒は創英で過ごす6年間で、「考える」ために必要な知識や技術を身につけ、「行動する」ために必要な判断力や健康な心身を育て、自分の進む道を自分で切り拓いていく力を養います。

大学進学を見据え、一人ひとりの能力に合わせたきめこまやかな学習指導を行うとともに、宿泊行事をはじめとした、さまざまな体験学習のプログラムが組み込まれているのが、創英の教育の特色。多くの体験を積むことで、豊かな人間性が育ち、夢に向かって積極的にチャレンジしていく力が育ちます。

今、着実に大学進学実績が上がっている学校として注目を集めている横浜創英中学・高等学校。2010年度も、国公立大学、早稲田大学をはじめ多くの難関大学に合格者を輩出。現役での大学進学率も年々高まっています。

英語・数学を重視した特色あるカリキュラムが組み込まれ、基礎・基本の知識を確実に習得させるため、生徒一人ひとりの能力に応じたきめこまやかな指導を展開。英語・数学は習熟度別授業を行い、補習・補講にも力を入れています。さかんな部活動との両立を図るため、成績が基準に達しない場合は、部活動を一時ストップして強制的に補習に参加させることもあるとか。また、部活動のあと、学校に残って勉強できる場も用意。そこで宿題をしたり、先生に質問することができるようになっています。

さらに特徴的なのは、週3回、7時間目に総合学習の時間を設け、中1ではネイティブの先生が英語のみで授業を行うイングリッシュアワーとし、中2・中3では体験学習の一環として調べ学習を行っていること。調べたことや考察したことをみんなの前で発表する機会も多く、プレゼンテーション能力も養われます。プレゼンテーションの方法も、模造紙に書いたり、パワーポイントを使ったりとそれぞれ工夫を凝らしています。

創英の学習指導のポイントは「中高6年間で一人ひとりをいかに伸ばすか」ということ。実際に、入学

時から30以上も偏差値を伸ばし、見事に難関大学に合格した生徒もいます。創英には「生徒を伸ばすシステム」がある。「生徒が好き、創英が好き」という熱意ある先生方の指導のもと、大きく成長することができるのです。

こうしたきめこまやかな学習指導とともに、創英の教育のもう一つの大きな柱となっているのが体験学習です。

中学に入学して最初に迎える夏。創英の中学1年生は、長野県の斑尾高原に向けて出発します。ここで3泊4日の「アドベンチャースクール」が行われるのです。

「アドベンチャースクール」は、ただの宿泊行事ではありません。「山の冒険」、「川の冒険」といった冒険プログラムが組み込まれ、インストラクターの指導のもと、数人のグループごとに、いろいろな難問に挑戦します。たとえば3キロの川下りをする「川の冒険」では、ときにはボートのヘリにグループ全員が立つといった課題が出されるのだとか。生徒はみんなで大はしゃぎしながらも、協力し助け合うことを学びます。「山の冒険」では、山と山の間にロープをかけ、そこを滑るように渡っていくジップラインを体験しますが、かなり高いところを渡るのでこわがる生徒も多く、そこでもお互いに励まし合う仲間意識が育ちます。また最後の夜には、設計図と材料だけを渡されて、グループごとに、

インディアンの野営用の住居であるティピーを設営。夜は、その中でランプトークをします。幻想的な雰囲気の中で顔つき合わせて語り合う。ふだんとは違う深い話をし、お互いのことを理解し合い、自分自身についても考える。「アドベンチャースクール」のクライマックスともいえる時間です。

そして翌朝、「1年後の自分へ」という手紙を書き、その手紙は、次の年に自分の手元に送られてくることになっているのだとか。生徒はそこで、もう一度、自分の成長を確かめることになるでしょう。楽しみながら、仲間の大切さを身を持って学び、自分自身を見つめなおす。「アドベンチャースクール」は、創英の生徒にとって、これからの学校生活を送るうえで、一つの原点になっているとも言えそうです。

「アドベンチャースクール」以外でも、中1の鎌倉研究、中2の関西歴史研修など、創英の体験学習プログラムは盛りだくさん。そして、中学校3年間の集大成であり、体験学習プログラムの一番大きな目標ともいえるのが、中3で行われる「カナダ語学研修」です。

この「語学研修」はカナダのバンクーバー島で12日間行われ、一人もしくは二人一組でホームステイをしながら、現地の学校に通います。生徒一人ひとりにバディと呼ばれる現地の学生が付き、それぞれのバディの受けている授業と一緒に参加するので、

音楽や体育なら大喜びですが、科目によっては内容が理解できず、たいへんなことも。それでも「数学は意外と理解できる」と話す生徒もいて、実際に体験したからこそ感じる、わかることが少なくありません。帰宅後や休日はホストファミリーと料理をしたり、ショッピングに出かけたり。カナダの文化に触れながら、生きた英語を学ぶことができ、一生心に残るすばらしい体験になっています。この経験から、その後、1年間の留学を希望する生徒も少しずつ増えてきているのだとか。体験をもとに、新たな夢に向かってチャレンジする。創英の体験学習の目指す力が、確実に育っています。

創英の教育のキーワードは「夢へのチャレンジ」。6年間で、夢を見つける力、夢を実現する力を身につけます。

「さまざまなことに積極的にチャレンジする気持ちのある生徒に入学してほしい」とおっしゃる岩村基紀校長先生。

「入学してもらえば、責任を持って学習をサポートし、一人ひとりの夢の実現に向けてお手伝いをします。ぜひ、一緒にいろいろな体験をして、夢を実現しましょう!」

横浜創英で

夢にチャレンジ!

教育に最適な環境のなか最新の施設も完備

最寄りのJR横浜線大口駅からは徒歩8分。閑静な地域にあり、教育には最適です。施設は快適性と機能性を兼ね備え、校舎の電力に太陽光発電システムも導入。生徒の環境教育に活用するほか、「地球温暖化対策地域学習センター」として一般にも公開しています。43,000冊以上の蔵書数を誇る図書館も自慢の一つ。近代的トレーニングマシンの完備したトレーニングルームは、クラブ活動や雨天の体育の授業でも使用しています。

中学生の一番のお気に入りのスペースは、本がたくさん置いてある、中学校舎のフロアの一部。友達同士で本を覗き込みながら、楽しそうにおしゃべりする姿が見られます。自由に使えるコンピュータのある多目的ホールも人気。また、麺類や丼もの、定食などさまざまなメニューが400円前後で食べられるセルフサービス式の食堂は、中学生も利用することができるので、食べ盛りの生徒にとって非常にありがたい場所になっています。